



令和4年11月25日

11月号

杉並区立高井戸中学校
校長 高津憲

教育目標 ゆたかな人 ねばり強い人 たくましい人 よく考える人

サッカーワールドカップをとおして、みえるもの

副校長 半野田 聰

現在、FIFA ワールドカップ（以後、ワールドカップ）が開催されています。日本代表が初戦で強豪ドイツに競り勝ったこともあり、日本国内でも大いに盛り上がりを見せています。4年に一度のこのスポーツの祭典ですが、試合を楽しむのはもちろんですが、それと同時に様々なことを考える時間にもなります。

今大会の開催地であるカタール国は、1971年に独立を果たしたまだ若い国です。面積は秋田県ほどの広さ。人口は約 280 万人（茨城県や広島県と同程度）。人口の 80 パーセント以上が外国人で、国内労働力は外国人労働者に大きく依存しています。天然ガスの産出で有名で、その埋蔵量は世界シェアの 13 パーセント程度を占めるといわれています。日本もカタールから多くの天然ガスを輸入しています。東日本大震災の際には、カタール政府は 1 億ドルの資金提供と天然ガスの追加供給をしています。政治体制としては首長制で、日本の国会にあたる諮問評議会は 45 名で構成されています。ワールドカップには今回初出場。カタールの国土は砂漠です。首都ドーハの年間平均最高気温は 32.5°C、6月から8月は平均で 40°C を超えます（東京は年間平均最高気温 19.8°C）。降雨量は、年間 75mm 程度（東京は 1500mm 程度）、などなど。カタールに関するごく一部羅列しましたが、知っていたこと、日本と全く違うこと、想像もできないことなど抱いた感想はそれぞれだと思います。ただ、カタールという国を知れば知るほど、「カタールとは〇〇だ。」と大きな括りをすることに違和感が生じます。「よく知る」ことは、対象を理解することにつながると改めて感じました。

さて、今大会では、女性審判員が6人選ばれました。その中には日本の女性の国際審判も含まれ、ベルギー対カナダ戦で、第4審判を担当しました。これまで男子のワールドカップは 21 回開催されてきましたが、女性が審判を担当したことはなく、カタール大会が初めてとなりました。では、なぜこれまで（男子の）ワールドカップに女性審判員は参加できなかったのでしょうか。みなさんはどう思われますか？おそらく、そこには科学的な根拠があるわけではないのに「女性にはできない」といった無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）があったのではないかでしょうか。しかし、国際審判としてワールドカップの試合を担当したいという想いが、個々の努力と社会の潮流の変化につながり今回の成果に結びついた。そこには、性別は関係なく一人の人間として努力する美しさと個を大切にしようとする人権意識の高まりがみられます。ここでも、「〇〇だから」という大きな括りをすることの危うさが見え隠れします。

心を躍らせながら日本戦を観ていたとき、サッカーだけに限らず「チーム」とは、社会の構造と似ているなどふと思いました。一人として同じ選手はいません。一人ひとりが、自分の得意な役割を果たし、力を集結させて最大限の効果を生み出す。このことは、私たちの住む社会にもいえることではないでしょうか。人間は一人ひとり違います。その多様な考え方や生き方から生み出される知恵を結集して支え合っていくことが共に生きていく上でとても大切なことです。観戦しながら改めて考えさせられました。

そういえば、カタールの首都ドーハでは、29 年前、ワールドカップアメリカ大会のアジア最終予選が行われ、日本は惜しくもワールドカップ初出場を逃し、「ドーハの悲劇」という言葉が生まれました。あれから、月日が流れ、今回で 7 大会連続の出場となりました。今では、当たり前のように出場するようになった日本代表ですが、ここに行き着くまでには、数えきれない人々の努力と知恵が脈々と受け継がれてきたからだと考えると、試合を見る角度が少し変わるかもしれません。ワールドカップから多くを学びつつ、サッカーファンの一人として、最後までカタール大会を楽しみたいと思います。

（参考資料：外務省 HP、総務省 HP、NOAA HP）

学校 HP <https://www.suginami-school.ed.jp/takaidochu>

人権教育（3年生）

11月4日、交通事故でご家族を亡くされた方をお招きして、お話を聞く時間をもちました。

元気だった家族が突然いなくなる悲しみや喪失感について実際にお話を聞くことで、命の尊さを改めて実感することにつながりました。また、犯罪被害に遭った場合、周囲からの支えが大きな力となることや、被害者やその家族等の意思を尊重した対応をすることが何よりも大切であることを学びました。

学校給食運営協議会

11月17日に、教育委員会、中学校PTA協議会代表、本校PTA協議会代表、委託業者、学校栄養士、校長、副校長が参加し、学校給食運営協議会を開催しました。学校栄養士からは、給食実施状況等の話がありました。その中で、本校の残食率が平均4.7パーセントであること、その量は他校と比較して少ないという報告がありました。特に2年生の残食率が極めて低いことです。PTAの代表からは、給食のおいしく温かで、工夫されたメニューにいつも感謝しているという言葉がありました。

震災救援所訓練

11月20日に震災救援所訓練を実施しました。当時は多くの地域の方が参加し、防災倉庫の備品の確認、避難者受け入れのための受付の手順、簡易トイレの設置方法、防災無線の扱い方の訓練を行いました。また、どう



すればスムーズに受け入れができるかについて意見交換をして「高井戸スタイル」を確立する重要性について確認しました。

移動プラネタリウム

11月10日、済美教育センターにお願いして移動プラネタリウムを、3年生対象に実施しました。体育館に設置されたドームに圧倒される生徒も多く、映し出された星空に悠久の思いを馳せる時間となりました。また、8日には皆既月食が起こったこともあり、生徒は宇宙や星々に対する興味・関心をさらに高めました。



地域を知る

1年生は、総合的な学習の時間で「地域を知る」に取り組んでいます。テーマは8あり、それぞれ調べ学習を進めていきます。また、講師の方からは、長年杉並区に住んでいるからこそ語ることができるもののお話を聞くことができ、生徒はいくつも質問をするなど、大変意欲的に学習に取り組んでいます。どのような発表会になるか楽しみです。



杉並区中学校対抗駅伝大会に向けて

12月11日に開催される「中学校対抗駅伝」。これまでたくさんの生徒が一生懸命練習に参加しました。先日、選抜選手が決まりましたが、練習に参加したすべての生徒が高井戸中の選手だと考えています。これからも全校を挙げて応援して盛り上げていきましょう。

December schedule

日	曜日	給食	行事予定	日	曜日	行事予定
12/1	木	○		17	土	
2	金	○	教育相談 始	18	日	
3	土			19	月	○ 朝礼（表彰）
4	日			20	火	○
5	月	○	生徒朝礼	21	水	○ セレクト給食 学びの教室保護者面談
6	火	○	駅伝前健康相談	22	木	○ 美化活動
7	水	○		23	金	○ 終業式
8	木	○	安全指導	24	土	
9	金	○	教育相談 終	25	日	
10	土		土曜授業	26	月	冬季休業日 始
11	日		中学校対抗駅伝大会	27	火	
12	月	○	保護者会（2）	28	水	
13	火	○		29	木	
14	水	○	学びの教室 2学期最終	30	金	
15	木	○	入試相談（3）避難訓練	31	土	
16	金	○	入試相談（3）部活なし 学びの教室保護者面談			（数）は学年